

食肉衛生検査所だより

平成 29 年度

◆第2号◆



平成28年度廃棄状況

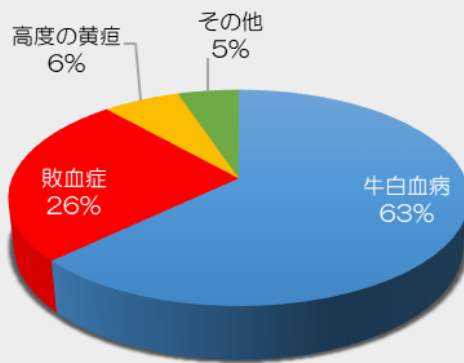
福岡市食肉衛生検査所では、平成28年度に牛を21,134頭、豚を133,478頭検査しました。そのうち、一部廃棄（病変部のみを廃棄すること）となった牛は12,964頭、豚は87,847頭でした。また、全部廃棄（一頭丸ごと全て廃棄すること）となった牛は78頭、豚は154頭でした。全部廃棄の理由のうち最も多い病気は、牛では牛白血病（49頭）、豚では敗血症（85頭）でした。



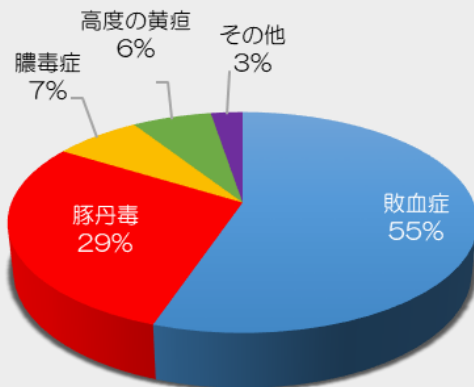
農場から運ばれてきた牛と豚は、検査員（獣医師）が一頭ずつ検査をしています。検査で重度の病気が見つかった場合は全部廃棄となり、その割合は、牛では270頭に1頭、豚では866頭に1頭くらいです。全部廃棄となる病気にはどのようなものがあるのか見ていきましょう。



牛の全部廃棄理由



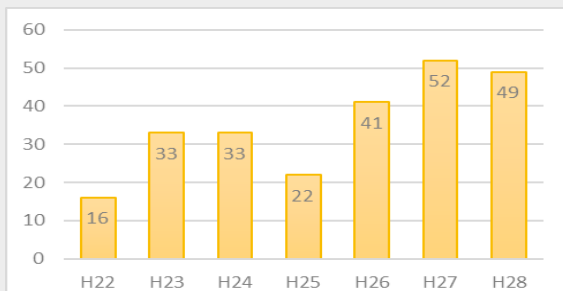
豚の全部廃棄理由



牛白血病

リンパ球の悪性腫瘍（いわゆる“がん”）で、牛白血病ウイルスに感染した牛の数%が発症します。リンパ節の腫大や心臓、消化管などにできた腫瘍によって発見されます。人の白血病とは病原体が異なるため、人には感染しません。

下のグラフは当検査所で見つかった牛白血病の頭数を表していますが、近年増加傾向にあり、大きな被害を与えています。農場では感染予防の対策が行われています。



敗血症

体内に侵入した細菌が増殖した後、血液に乗って全身に回り引き起こす病気の総称です。心臓の^{いぼ}疣状病変や、複数の臓器に点状出血が認められます。牛・豚ともに全部廃棄となる病気のうち高い割合を占めています。

下の写真は豚の心臓の弁に形成された疣状病変を示しています。敗血症を発症した牛や豚に最もよくみられる病変です。

